

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：企業物価（2005年11月）

発表日：2005年12月12日（月）

～概ね予想通りの内容～

(No. J-185)

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 齋藤俊輔  
 TEL: 03-5221-4547

## &lt;ポイント&gt;

- 10月の国内企業物価は前月比横ばいと、概ね事前コンセンサス（中央値：+0.1%、レンジ：▲0.1%～+0.5%）通りの結果となった。また、前年比では+1.9%と上昇傾向が持続している。内訳をみると、石油・石炭製品（前年比+20.1%）、化学製品（同+4.1%）、非鉄金属（同+18.2%）等が引き続き全体を押し上げている。石油・石炭製品はガソリンなどの在庫が増加したことで、前月に比べて価格は低下したものの、前年比での高い伸びには変わらない。また、化学製品は上昇ペースが鈍化している。これは軟調であった原油価格に連動して、ナフサ価格が下落したことを背景に中国の仮需が一服したこと等が影響していると思われる。非鉄金属の上昇は銅を中心とした国際商品市況が高値で推移していることに連動した動きとなっている。一方、鉄鋼は同+6.0%（10月、同+7.2%）と上昇率の鈍化が続いている。依然として、一部鋼材の在庫調整が遅れている影響が出ていると考えられる。
- 原油価格はやや軟調に推移しているものの、世界的な需給逼迫を背景に大幅な価格下落は見込み難いことから、石油製品の高止まりが持続することを示唆している。また、円安による原油入着価格の上昇も影響するだろう。一方で、化学製品の上昇幅は、足もとで中国などの需要がやや弱含んでいることから、引き続き鈍化する可能性があるだろう。商品市況全体は世界的な需要堅調を背景として上昇が続くと見込まれることから、企業物価の緩やかな上昇傾向も変わらないと予想される。

(単位：%)

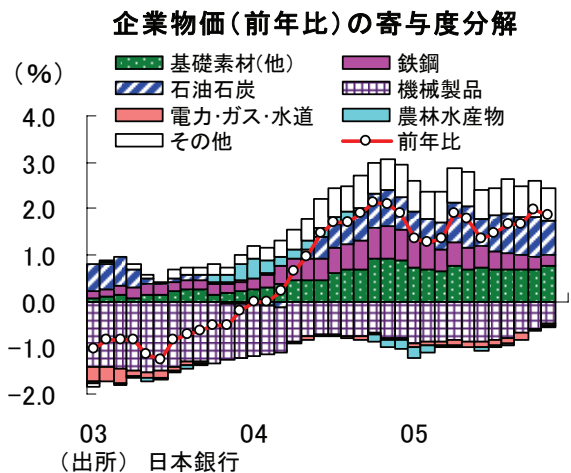
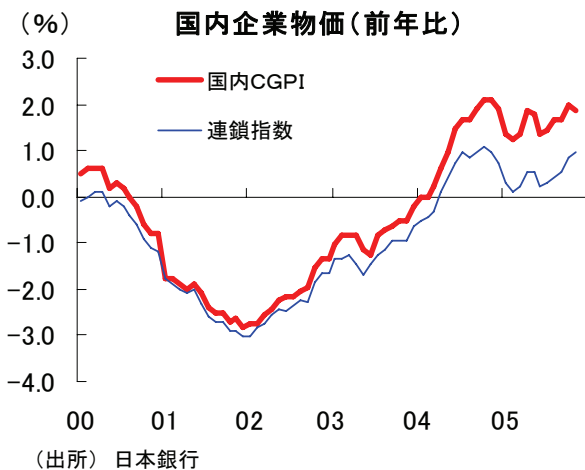
	国内企業物価				国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価		
	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	
03	1-3月期	0.0	▲0.9	0.1	▲0.7	0.0	▲1.3	▲1.1	▲6.3	0.6	0.5
	4-6月期	▲0.4	▲1.1	▲0.5	▲1.1	▲0.5	▲1.5	0.4	▲3.1	▲1.6	▲1.3
	7-9月期	0.1	▲0.7	▲0.1	▲0.6	0.0	▲1.2	▲1.2	▲0.3	▲0.2	2.2
	10-12月期	▲0.1	▲0.4	▲0.3	▲0.8	▲0.3	▲0.8	▲4.6	▲6.4	▲3.8	▲4.9
04	1-3月期	0.5	0.1	0.5	▲0.4	0.4	▲0.4	1.6	▲3.8	2.8	▲2.8
	4-6月期	0.5	1.1	0.7	0.8	0.3	0.4	0.9	▲3.3	5.2	3.9
	7-9月期	0.8	1.8	0.6	1.6	0.5	1.0	1.3	▲0.8	2.1	6.3
	10-12月期	0.1	2.0	0.5	2.4	▲0.3	1.0	▲1.1	2.8	▲0.8	9.5
05	1-3月期	▲0.1	1.4	▲0.2	1.7	▲0.3	0.2	▲0.5	0.6	0.3	6.8
	4-6月期	0.8	1.7	1.1	2.1	0.5	0.4	1.3	0.9	9.1	10.8
	7-9月期	0.7	1.6	0.5	2.0	0.4	0.3	1.4	1.0	4.7	13.7
04	11月	0.1	2.1	0.1	2.4	▲0.1	1.0	▲1.9	2.5	▲1.3	9.5
	12月	▲0.1	1.9	▲0.2	2.3	▲0.1	0.7	▲0.6	1.8	▲1.5	7.4
05	1月	▲0.3	1.4	▲0.2	1.9	▲0.3	0.3	▲0.6	0.6	▲0.8	5.7
	2月	0.1	1.3	0.1	1.7	0.0	0.1	1.5	1.0	2.8	7.6
	3月	0.3	1.4	0.2	1.6	0.2	0.2	0.6	0.4	1.8	7.0
	4月	0.7	1.9	0.9	2.2	0.4	0.5	1.0	3.5	7.3	13.9
	5月	▲0.1	1.8	0.0	2.1	0.0	0.5	▲1.3	▲1.3	▲0.5	9.0
	6月	▲0.1	1.4	▲0.1	1.8	▲0.1	0.2	0.5	0.8	0.0	9.5
	7月	0.6	1.5	0.4	1.9	0.5	0.3	1.8	1.9	4.2	14.3
	8月	0.2	1.7	0.2	2.0	0.0	0.4	▲0.4	0.5	0.1	13.1
	9月	0.2	1.7	0.2	2.1	0.2	0.5	0.1	0.6	1.8	13.5
	10月	0.3	2.0	0.5	2.2	0.1	0.8	1.9	2.4	3.4	18.3
	11月	0.0	1.9	0.0	2.1	0.0	1.0	1.6	6.1	1.7	21.9

(出所) 日本銀行

## ●国内企業物価は前月比横ばいと概ね事前予想通り

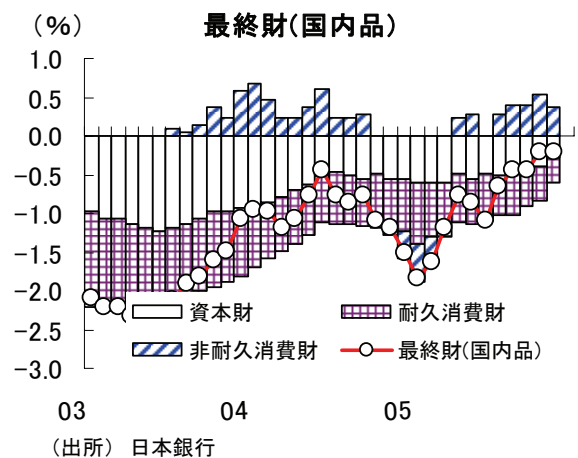
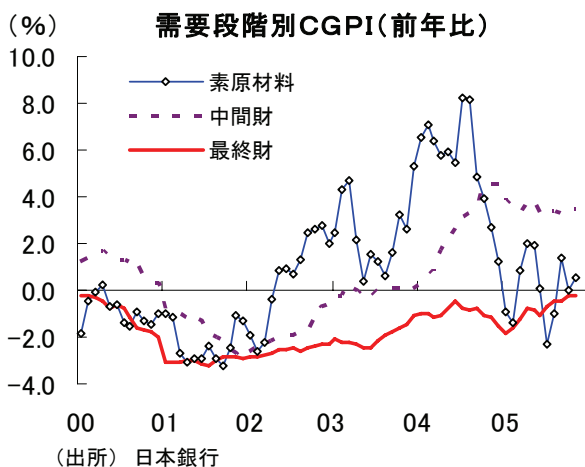
10月の国内企業物価は前月比横ばいと、概ね事前コンセンサス（中央値：+0.1%、レンジ：▲0.1%～+0.5%）通りの結果となった。また、前年比では+1.9%と上昇傾向が持続している。

内訳をみると、石油・石炭製品（前年比+20.1%）、化学製品（同+4.1%）、非鉄金属（同+18.2%）等が引き続き全体を押し上げている。石油・石炭製品はガソリンなどの在庫が増加したことで、前月に比べて価格は低下したものの、前年比での高い伸びには変わらない。また、化学製品は上昇ペースが鈍化している。これは軟調であった原油価格に連動して、ナフサ価格が下落したことを背景に中国の仮需が一服したこと等が影響していると思われる。非鉄金属の上昇は銅を中心とした国際商品市況が高値で推移していることに連動した動きとなっている。一方、鉄鋼は同+6.0%（10月、同+7.2%）と上昇率の鈍化が続いている。依然として、一部鋼材の在庫調整が遅れている影響が出ていると考えられる。



## ●川下への価格波及が継続

需要段階別にみると、素原材料（国内品）は前年比+0.6%と前月より上昇幅が拡大した。また、中間財（国内品）は、同+3.5%と高い伸びが持続している。依然として、製品の値上げは中間財を中心に継続しているようだ。もっとも、恒常的になりつつある原材料価格の高止まりにより、最終財（同▲0.2%）などの川下段階でも価格下落圧力は低下しつつある。最終財（国内品）の内訳をみても、資本財（同）（同▲0.8%←10月、同▲1.1%）、耐久消費財（同）（同▲1.6%←10月、同▲2.2%）とともに下落幅を縮小させている。

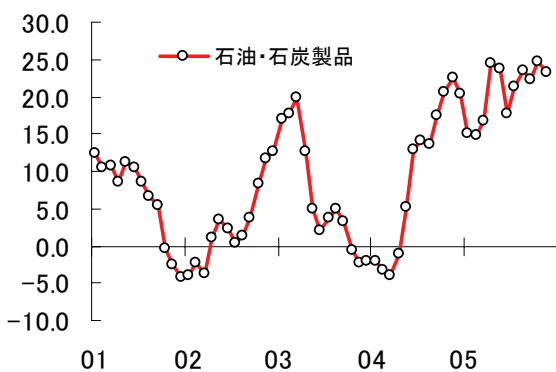


電気機器・精密機器などの価格の下落傾向は続いているものの、マイナス幅が徐々に縮小していることは注目されよう。石油・石炭製品価格の高止まりが続いていることから、非耐久消費財が上昇基調で推移していること、耐久消費財の物価下落圧力も緩和していること等を勘案すれば、消費者物価への上昇圧力も高まってくると考えられる。

### ●企業物価の緩やかな上昇傾向は持続

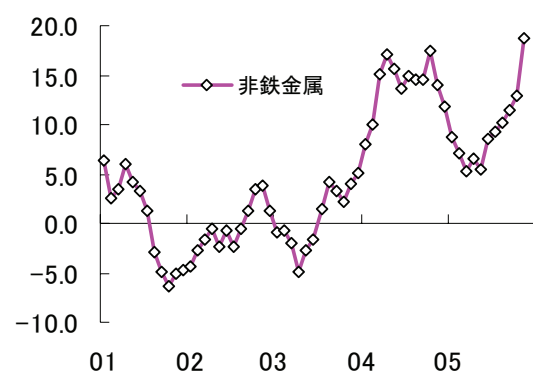
原油価格はやや軟調に推移しているものの、世界的な需給逼迫を背景に大幅な価格下落は見込み難いことから、石油製品の高止まりが持続することを示唆している。また、円安による原油入着価格の上昇も影響するだろう。一方で、化学製品の上昇幅は、足もとで中国などの需要がやや弱含んでいることから、引き続き鈍化する可能性があるだろう。商品市況全体は世界的な需要堅調を背景として上昇が続くと見込まれることから、企業物価の緩やかな上昇傾向も変わらないと予想される。

(%) 国内CGPI前年比(需要段階別)



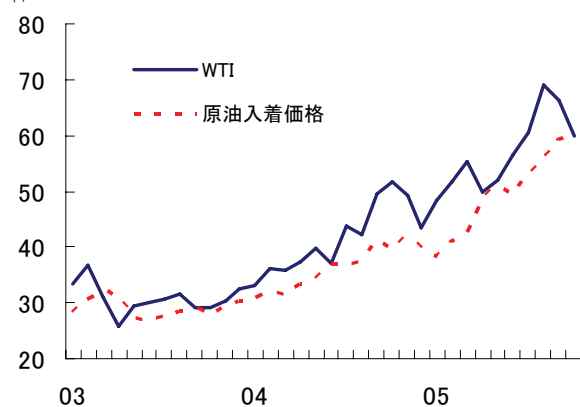
(出所) 日本銀行

(%) 国内CGPI前年比(需要段階別)



(出所) 日本銀行

\$/bbl 原油入着価格(ドル)とWTI価格



原油入着価格(円ベース)要因分解

